

# 仙台堀川公園整備 詳細計画策定委託 報告書 - 概要版 -

平成28年3月

大日本コンサルタント株式会社



# 1. 業務概要

(1) 業務概要

業務名 : 仙台堀川公園及び沿道整備基本計画策定委託  
業務場所 : 江東区北砂六丁目19番先から東砂四丁目1番先  
履行期間 : 平成27年5月12日～平成28年3月31日  
発注者 : 江東区 河川公園課 計画調整担当  
受注者 : 大日本コンサルタント株式会社

(2) 業務目的

- ・仙台堀川公園は、大横川から小名木川合流点まで総延長3,700m、面積10.4haに及ぶ都内最大級の親水公園である。
- ・仙台堀川の岸辺には桜並木、花の小径、サイクリングロード、親水池、さらに果実の森、科学の森をはじめとする7つの森が続き、春には桜、夏から秋の果実、紅葉と人々の目を楽しませているとともに、みどりの拠点として連続かつ多様なみどりが創出されており、本区の重要な歩行者・自転車動線として活用されている。
- ・しかし開園後約30年以上を経過し、施設の老朽化や自転車の通行量増加による公園機能の阻害、水路の水質悪化などの課題が生じてきていることから、平成29年度から公園の改修工事を予定している。

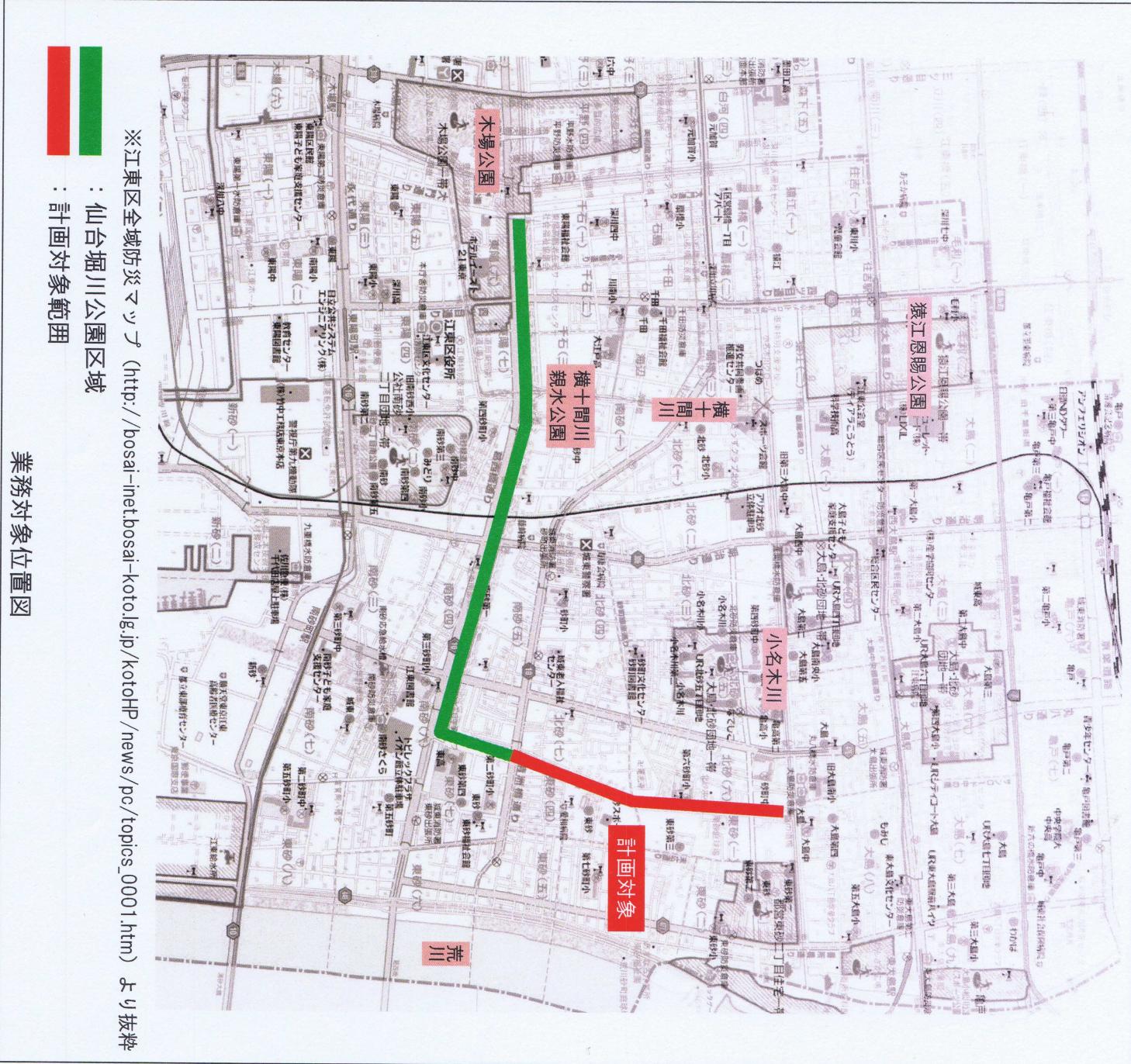
・本業務は、整備工事のための実施設計の前段階として、基本設計を策定することを目的としており、計画の策定にあたり、測量・樹木調査・交通量調査・地歴調査を行う。

・基本設計として、仙台堀川公園を中心とした、水と緑を生活の中で身近に感じることができる、うるおいのあるまちづくりの検討を行うものである。

(3) 業務内容

- ア. 基本設計
- 基本計画の把握、与条件及び諸施設の検討のうえ、計画方針およびデザインコンセプトを設定し、基本設計説明書（平面図、断面図）・基本設計図の作成、数量計算書、概算工事費を算出した。
- イ. 測量
- 基準点測量、現地測量、路線測量、水路測量を実施した。
- ウ. 樹木調査
- 桜をはじめとした公園内樹木の育成状況の把握のため、樹木調査を実施した。
- エ. 交通量調査
- 対象地周辺の交通状況把握のため、交通量調査を実施した。
- オ. 地歴調査
- 土地改変に伴う土壤汚染対策法及び環境確保条例に基づく届出書等の作成のため、地歴調査を行った。
- カ. パース図作成
- 関係機関や区民等への説明に合わせ、パース図を作成した。
- キ. 設計協議

## (4) 対象位置

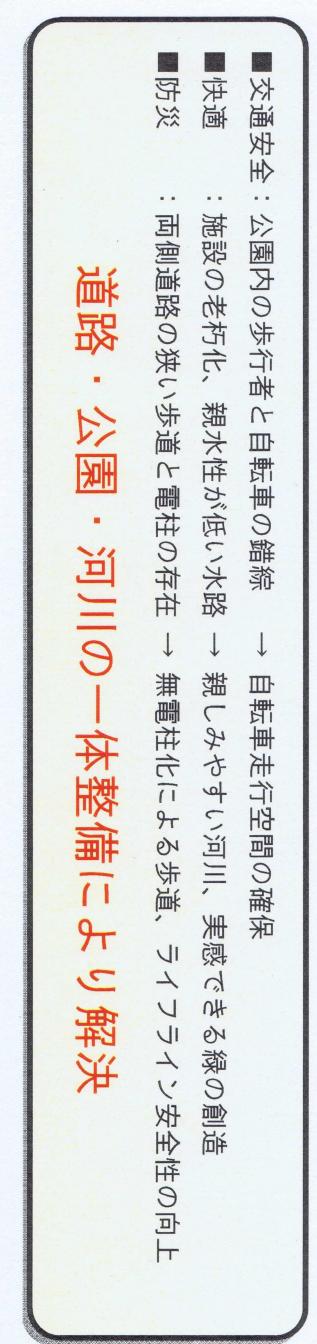


## 2. 事業の概要（基本計画より）

北砂・東砂の境に位置する仙台堀川公園のうち、城東地区を南北に縦断する 1.1 km 区間について、昭和 50 年代に整備された施設の老朽化や、交通安全などの課題解決のため、公園の改修工事を予定している。

- 交通安全：公園内の歩行者と自転車の錯綜 → 自転車走行空間の確保
- 快適：施設の老朽化、親水性が低い水路 → 親しみやすい河川、実感できる緑の創造
- 防災：両側道路の狭い歩道と電柱の存在 → 無電柱化による歩道、ライフライン安全性の向上

### 道路・公園・河川の一體整備により解決



(4) 現地状況



(1) 背景	
・区民に親しまれる総延長 3,700m、面積 10.4ha に及ぶ都内最大級の親水公園	・親水性のあるみどりの拠点のほか、砂町を南北に結ぶ重要な歩行者・自転車動線として機能
(2) 課題	
・施設の老朽化や自転車と歩行者の錯綜、植栽木の生育不全など	
・逐次改修されることによって、施設・植栽の配置が混乱	
・公園の両側の道路は幅員が狭く、安全性に課題	
(3) 事業の目的	
・砂町地区における水と緑を感じる、潤いのあるまちづくりの進化	
・公園と道路の一体整備による、親水性の高い、緑豊かな憩い空間の創出	
・安全な遊歩道、自転車道、車道の機能を充足した交通環境の改善	
・「みどりと自然の基本計画」に位置付けられる避難路ネットワークとしての機能確保	
・周辺地域との連携を考慮し、現在に相応しい適切な公園空間、施設、植栽の再配分・配置	

(5) 地域からの意見（平成 26 年度アンケート結果概要）

公園	歩行者と自転車の分離（安全・快適に歩行できる園路） 水路の親水性の改善、壁当ての存続や運動機能確保、桜の名所の存続 護岸撤去による公園と道路の高低差解消
道路	自動車のスピード抑制、電線地中化
その他	住民との意見交換による計画策定

### 3. デザインコンセプト

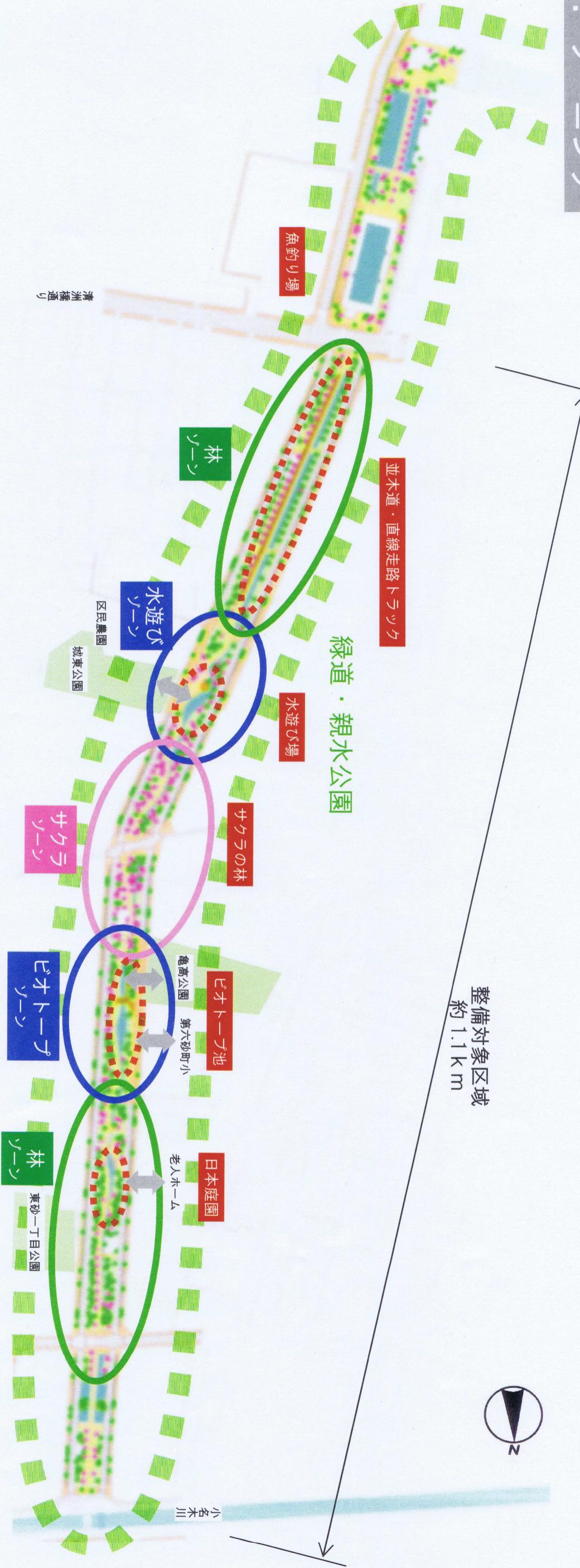
砂町の真ん中に返り咲く、

安全で親しみのある緑道・親水公園へのリノベーション

Point

- | 真ん中
  - ・人を惹きつけるリクリエーション機能、イベントで集まる広場、地域を代表する景観
- | 安全
  - ・两岸道路も含めた再配分によって、自動車・自転車・歩行者にとって心地よい空間
- | 親しみ
  - ・住宅・道路・公園を緩やかに分節し、入りやすい、相互に目線が通る空間
- | 緑道
  - ・災害時の避難路にもなる細長い敷地を活かして、明るい緑陰の中を飽きずに歩ける環境
- | 親水公園
  - ・運河としての歴史をベースに、敷地内に自然に水が引き込まれることを活かした親水空間

### 4. ゾーニング



#### ゾーンの解説

| サクラゾーン（緑道）  
名所として区民に親しまれているサクラは、計画対象区間に集中的に配置、イベント会場としての活用も視野

#### カナルゾーン（親水公園）

砂町の発展を支えた運河を礎に持つ公園として、その歴史を継承する存在を両端に配置

#### 水遊びゾーン、ビオトープゾーン（親水公園）

親水性向上のポイントとして、水遊び場・ビオトープを進化

#### 林ゾーン（緑道）

これらを繋ぐ区間には、緑豊かな林ゾーンを配置

デザインの  
方向性

イベントの  
活用

施設活用のイベント

直線的・整形的なデザイン

曲線的・自然的なデザイン

隣接する施設と一体となったイベント

隣接する施設と一体となったイベント

## 5. 現況と基本設計の断面比較

### ■水路

東側に片寄せとなっている水路は、道路の拡幅により移設が必要なことから、全面的に付け替える。人が近づける様に転落防止は低木植栽を基本として、極力防護柵を避け親水性を高める。

■基盤造成  
道路は家屋が隣接することから、路面レベルは変更しない。公園内は、盛土により植生基盤を確保するが、視線の通りに配慮する。

■植栽  
基盤条件からシイ・カジ類の常緑樹種と、象徴的存在であるサクラを中心とする。ただし、自然を基調とする日本庭園を意識して、四季の変化に富む落葉樹種を多用する。

### ■外周形態

車両の逸脱防止が必要となるが、道路側から視線を通すため、腰高の石積み擁壁を基本とする。

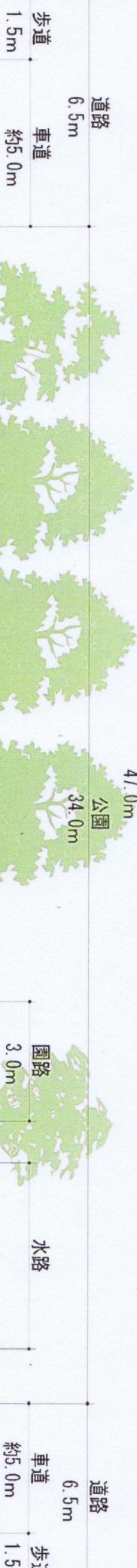
#### ■隣接する公園との連携

城東公園や亀高公園などの隣接する公園と仙台堀川公園は、公園側や道路側の植栽帯を割愛するなど、広い舗装空間とすることで、イベント活用など的一体的な利用に対応する。

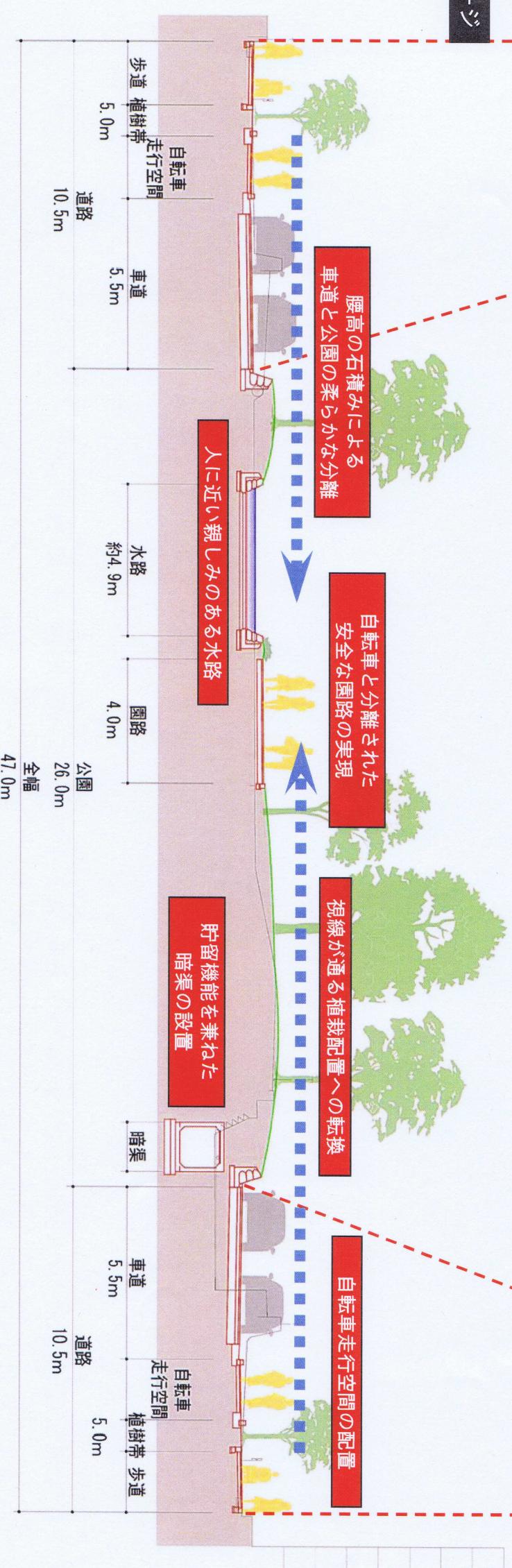
#### ■自転車交通の分離

ゆったりした散策路とするため、公園内は歩行者を基本とする。自転車走行空間は、道路区域に設置する。

### 現況断面イメージ

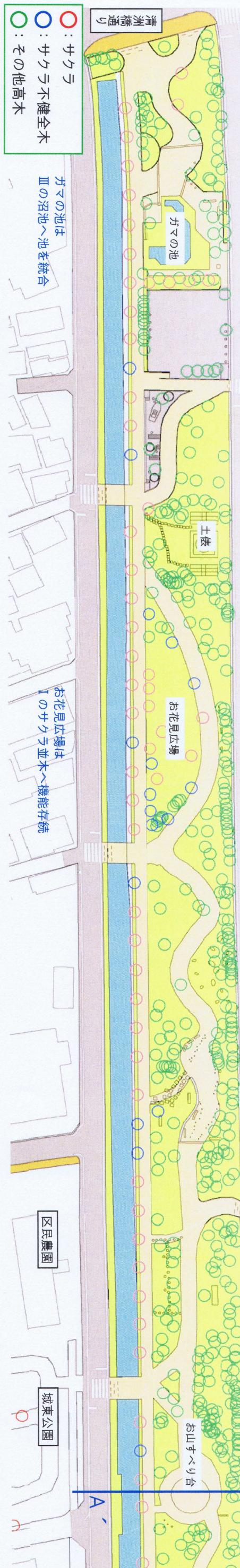


### 基本設計断面イメージ



## 6. 現況と基本設計の平面比較 (1/3)

現況



**A.並木ゾーン：直線的な並木道による引き締め**

- 仙台堀川公園を通して展開される自然基調の曲線園路との対比として、直線的な園路と水路をこの区間に設けることで、整然とした空間を創出し、多様に展開する全域の空間をここで格調高く引き締める。
- これに合わせて、園路に並行した走路を設けて公園利用の多様性を図る。

**⑤走路**

- 細長い敷地形状を活かして、しっかりと走れる走路を用意する。
- 本格的な走路を整備して公園利用の幅を広げ、クリエーション活動に寄与する。

**②町会の要望対応区域**

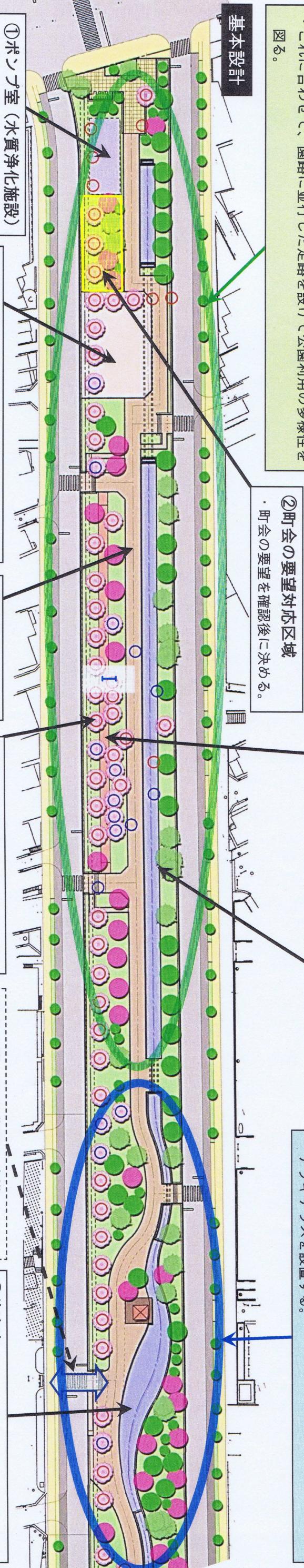
- 町会の要望を確認後に決める。

**⑦直線水路**

- 水を基調とする公園であり、様々な水の姿を見せることが重要であって、ここで歴史的な運河のイメージを整形的な水路を整備することで具現化する。

**B.水遊びゾーン：開放的な水遊び場への進化**

- 親水性の体現する水遊び場を配置する。
- イベントの開催にも配慮して、城東公園との連携を目指し、一体となった広場空間を確保する。
- 水辺空間での休憩や、子どもの水遊びを見守れるように、四阿とデッキテラスを設置する。



**①ポンプ室 (水質浄化施設)**

- 上流からの河川水を浄化し地上に流す施設を設置する。

**③土の広場**

- 軽運動のための空間として土系舗装による広場を整備する。

**④園路**

- 緊急車両の通行に配慮して、幅員は4mを確保する。

**⑥サクラ並木**

- 直線の並木道には、既存のサクラ並木を極力残して等間隔にて配置し、サクラと対称的な形でサクラのシンボル性を強調する。

**城東公園・区民農園と連携**

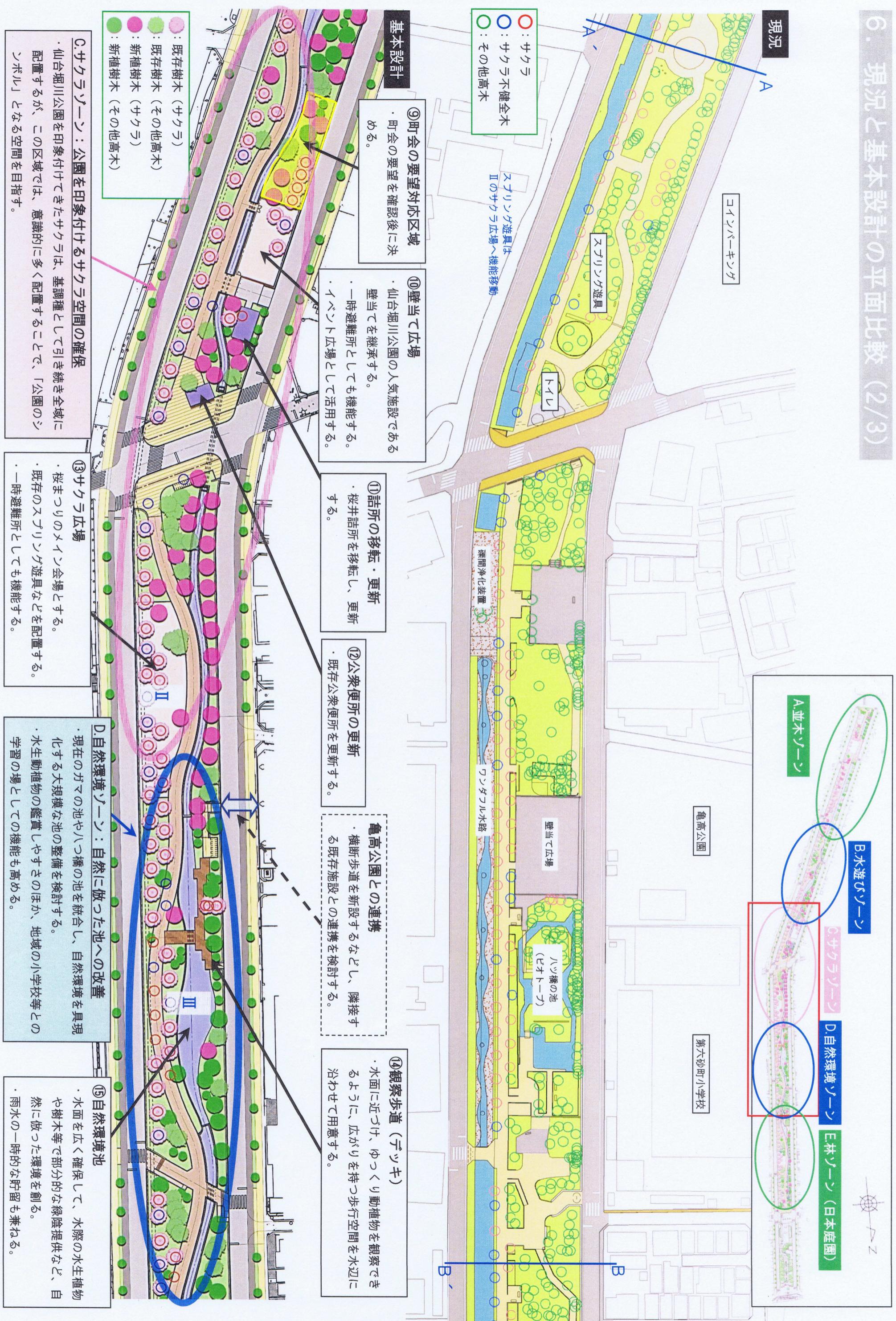
- 公園側も植樹帯を割愛するなど、広い舗装空間とすることで、イベント空間としての活用に対応する。

**⑧徒渉池**

- 子どもの水遊びを想定して、水に入つて遊べるように水深を浅くすることで、安全な空間とする。

江東区民まつり砂町地区大会の金魚・どうぐうすくい大会の会場として活用する。

●: 既存樹木 (サクラ)  
○: 既存樹木 (その他高木)  
●: 新植樹木 (サクラ)  
○: 新植樹木 (その他高木)



## 6. 現況と基本設計の平面比較 (3/3)



### E.林ゾーン（日本庭園）：設えの変化としての日本庭園

- 公園の設えの変化として、緑豊かな日本庭園を配置する。
- 主導線とは独立した静かで落ち着いた空間によって、散策や休憩の空間を目指す。
- 雨水の一時的な貯留も兼ねる。

### ⑯町会の要望対応区域

- 町会の要望を確認後に決める。

### ⑰土の広場

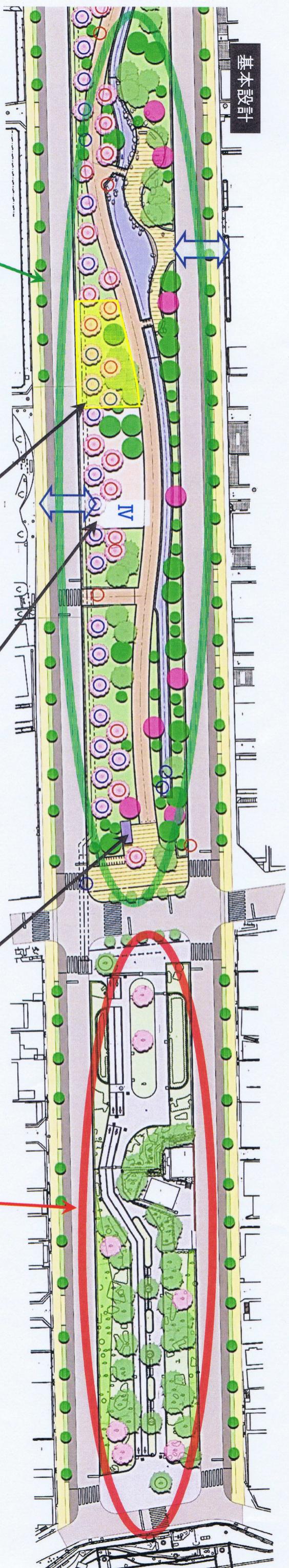
- 東砂一丁目公園と連携した空間を確保する。
- 多様な利用に対応する。
- 既存の遊具や健康遊具を設置する。
- 一時避難場所としても機能する。

### ⑱公衆便所の更新

- 既存公衆便所を更新する。

### 道路整備に伴うわずかな改修

- 基本的に現況のままでする。
- 道路拡幅に伴い、境界部を他エリアと同様に仕上げる（若干の切土造成を伴う）。



### 基本設計

### ⑮花壇の新設

- 花壇の新設によって、より豊かな緑地環境を実現する。
- 既存樹木（サクラ）を保護する。
- 新植樹木（サクラ）を適切に配置する。
- 新植樹木（その他高木）を適切に配置する。

### ⑯町会の要望対応区域

- 町会の要望を確認後に決める。

### ⑰土の広場

- 東砂一丁目公園と連携した空間を確保する。
- 多様な利用に対応する。
- 既存の遊具や健康遊具を設置する。
- 一時避難場所としても機能する。

### ⑱公衆便所の更新

- 既存公衆便所を更新する。

### 道路整備に伴うわずかな改修

- 基本的に現況のままでする。
- 道路拡幅に伴い、境界部を他エリアと同様に仕上げる（若干の切土造成を伴う）。

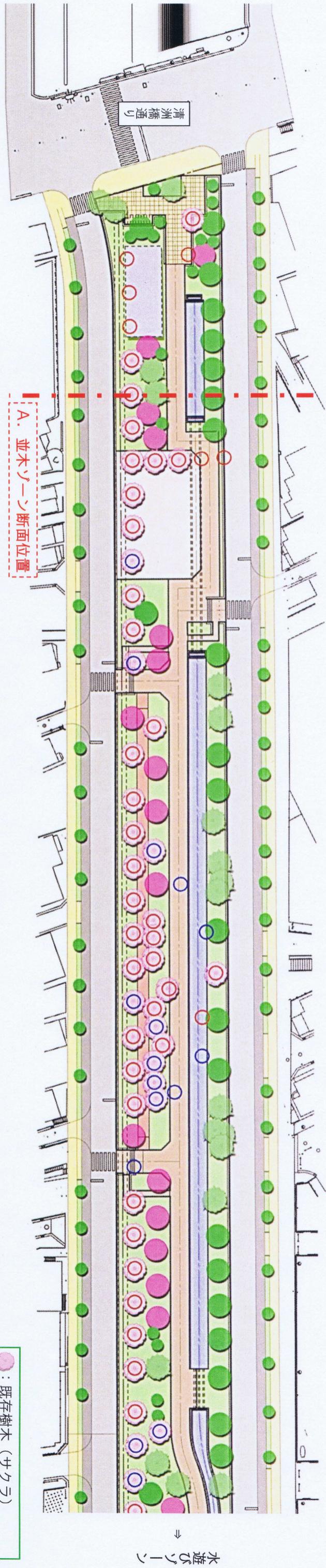
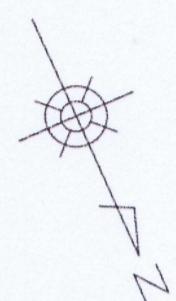
### ⑮花壇の新設

- 花壇の新設によって、より豊かな緑地環境を実現する。
- 既存樹木（サクラ）を保護する。
- 新植樹木（サクラ）を適切に配置する。
- 新植樹木（その他高木）を適切に配置する。

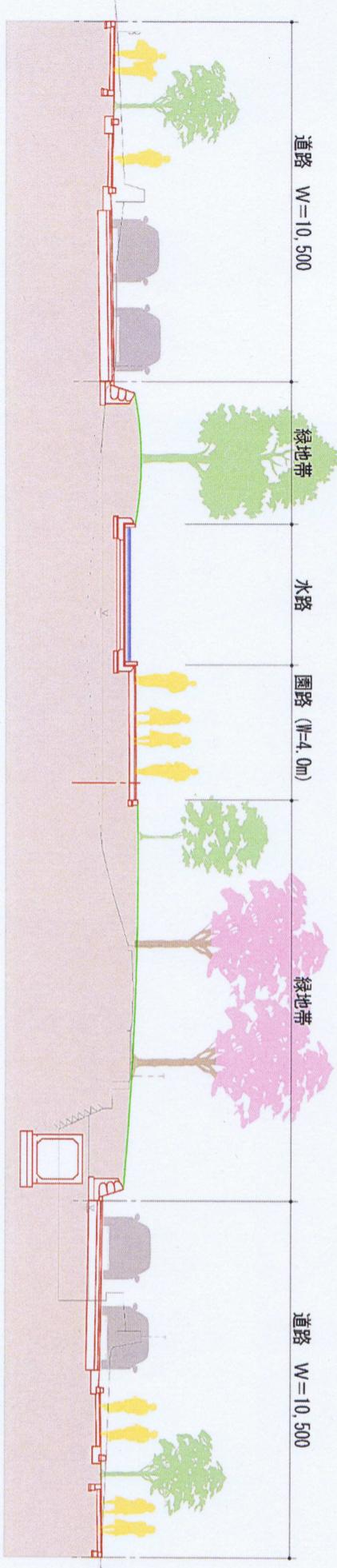
## 7. 各ゾーンのイメージ (1/5)

### A. 並木ゾーン

平面図



### 断面図



0  
1  
2  
5  
10m

### イメージパース

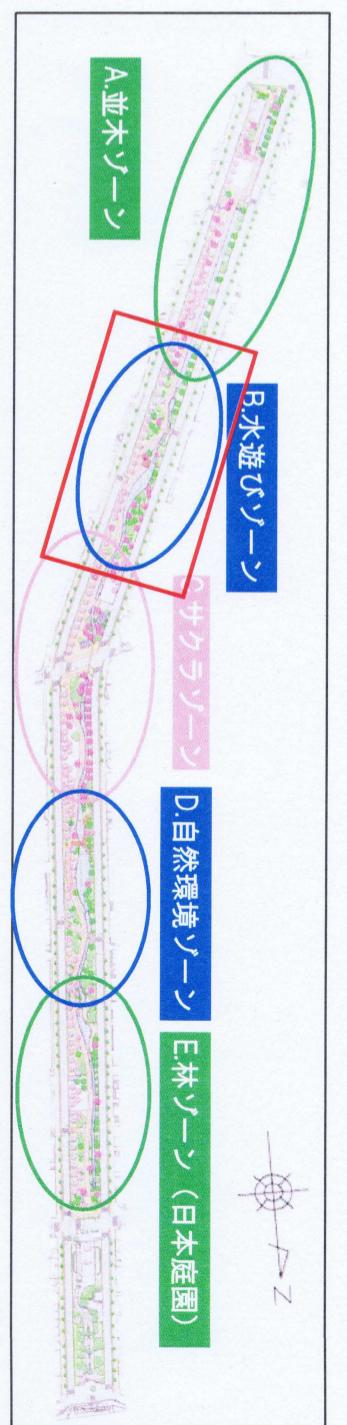


- : 既存樹木 (サクラ)
- : 既存樹木 (その他高木)
- : 新植樹木 (サクラ)
- : 新植樹木 (その他高木)

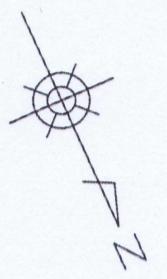
## 7. 各ゾーンのイメージ (2/5)

### B. 水遊びゾーン

平面図

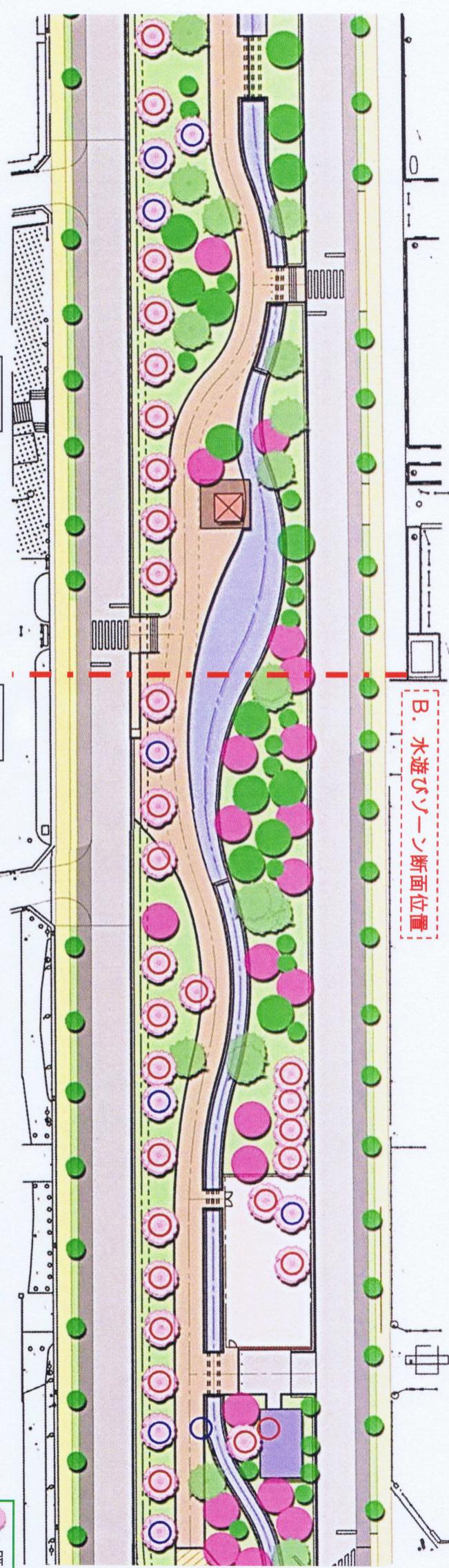


平面図



並木ゾーン

サクラゾーン



断面図

道路 W=10,500

水路

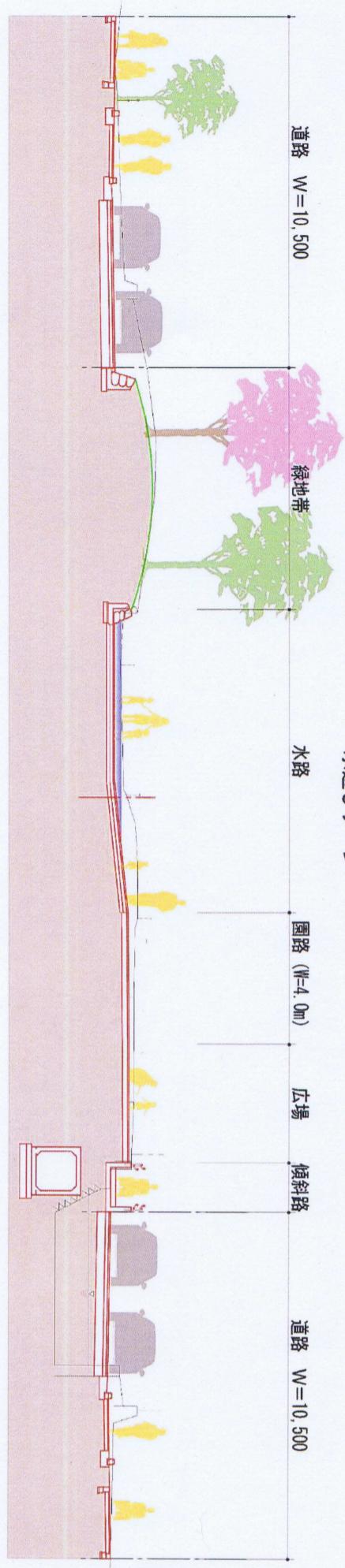
園路 (W=4.0m)

広場

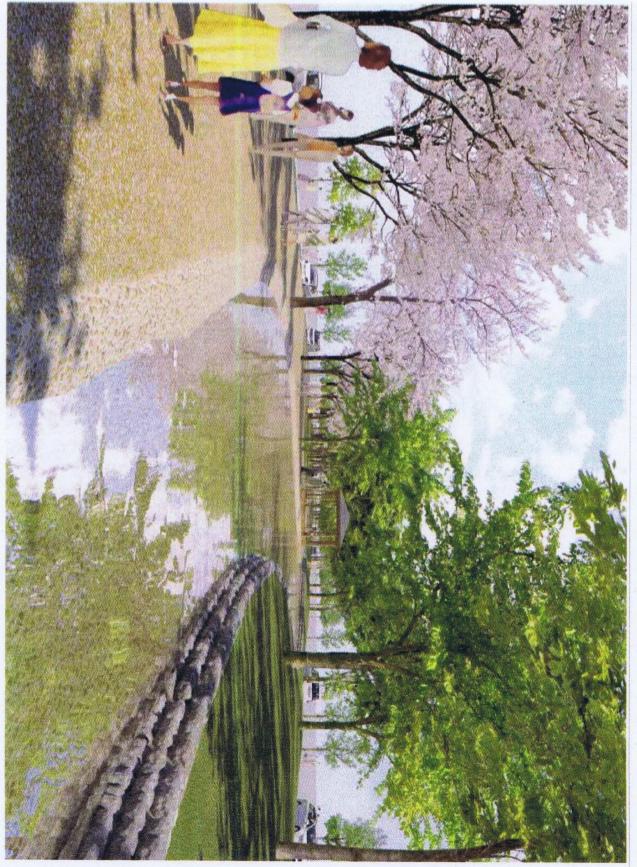
傾斜路

道路 W=10,500

水遊びゾーン



イメージパース



- : 既存樹木 (サクラ)  
既存樹木 (その他高木)
- : 新植樹木 (サクラ)
- : 新植樹木 (その他高木)

## 7. 各ゾーンのイメージ (3/5)

### C. サクラゾーン

平面図



A.並木ゾーン

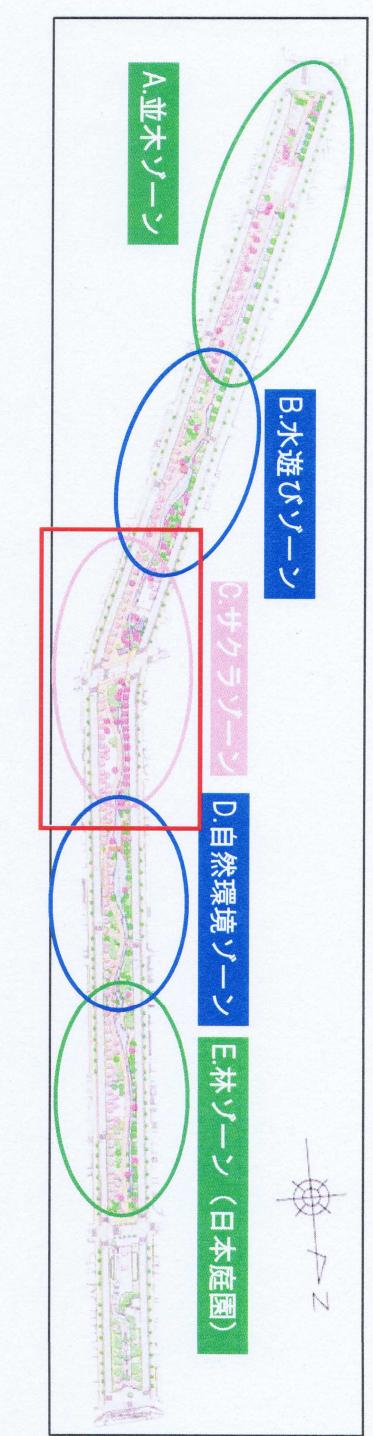
B.水遊びゾーン

C.サクラゾーン

D.自然環境ゾーン

E.林ゾーン (日本庭園)

- : 既存樹木 (サクラ)
- : 既存樹木 (その他高木)
- : 新植樹木 (サクラ)
- : 新植樹木 (その他高木)



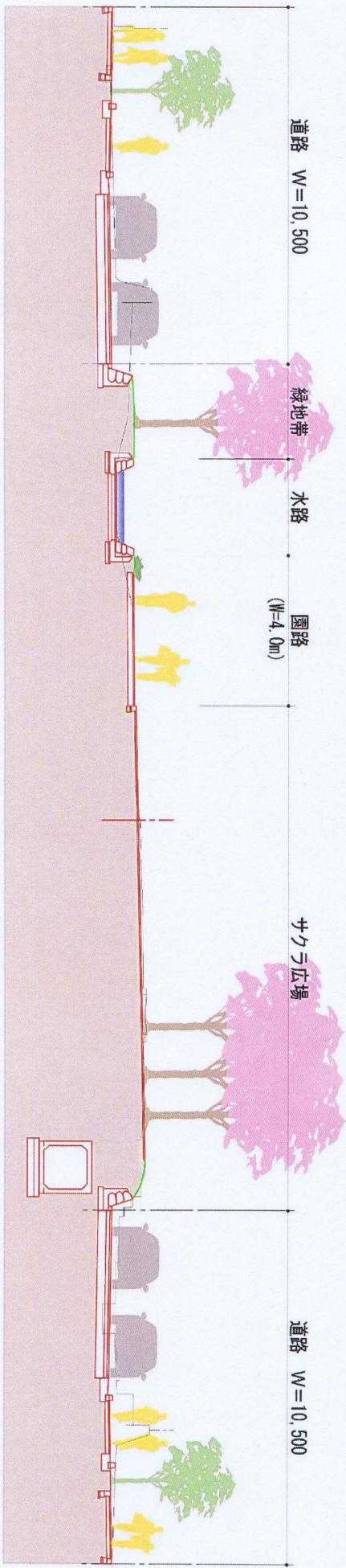
断面図

道路 W=10,500

緑地帯  
水路  
(W=4.0m)

サクラ広場

道路 W=10,500



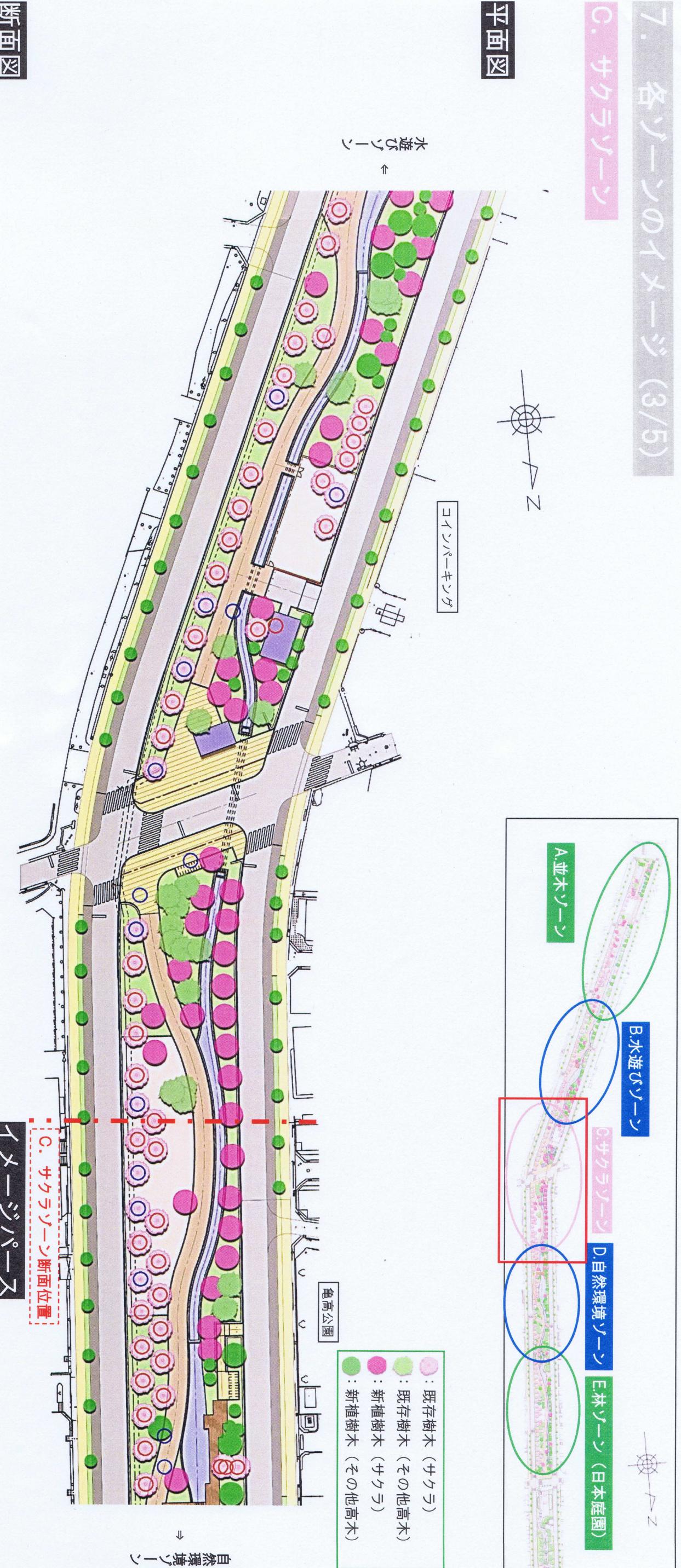
0 1 2 5  
10m



C. サクラゾーン断面位置  
イメージベース

自然環境ゾーン

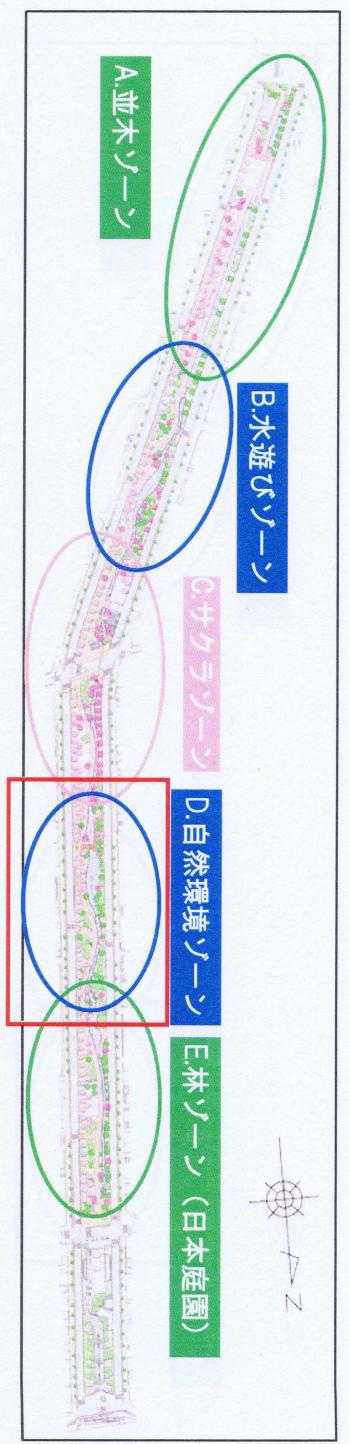
→



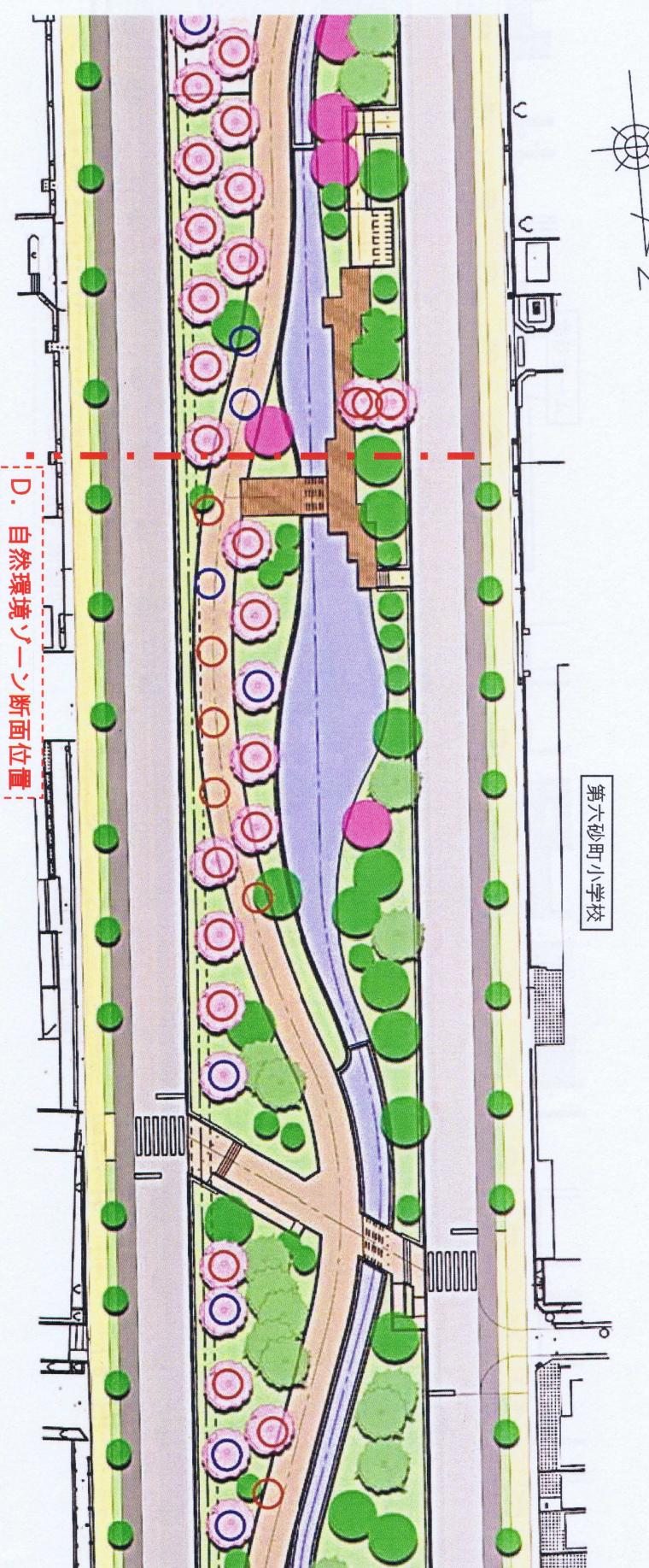
## 7. 各ゾーンのイメージ (4/5)

### D. 自然環境ゾーン

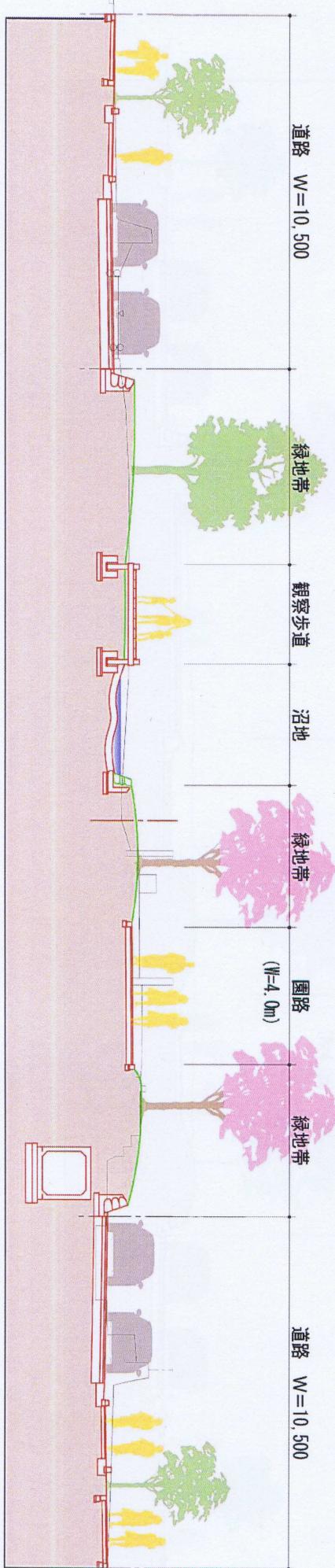
平面図



サクラゾーン



断面図



イメージパース

- |   |              |
|---|--------------|
| ● | 既存樹木 (サクラ)   |
| ● | 既存樹木 (その他高木) |
| ● | 新植樹木 (サクラ)   |
| ● | 新植樹木 (その他高木) |